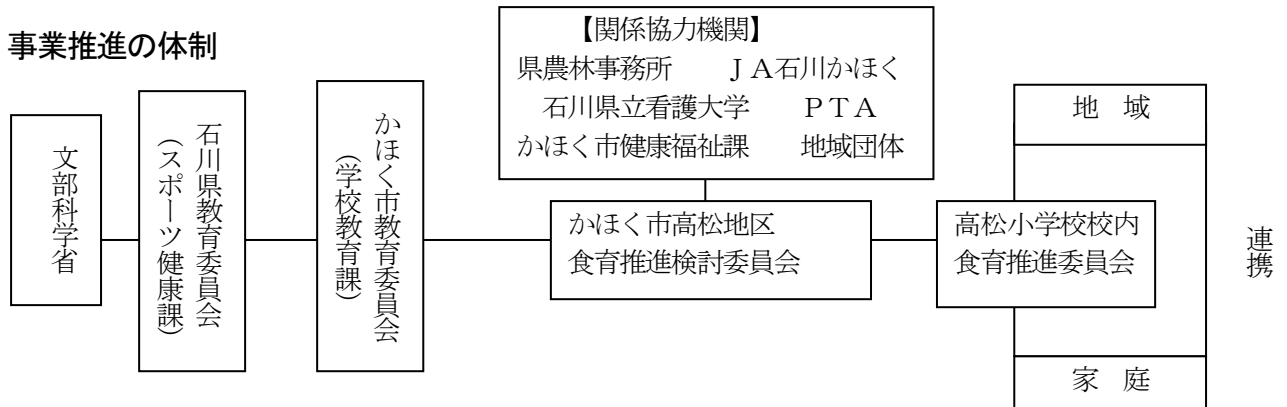


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	石川県
推進地域名	かほく市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

**テーマ1** 食の大切さを学び、心身ともに健康な高松っ子の育成  
～地域の農産物や人とのかかわり、体験活動を通じた食育の実践～

### (1) 各教科等における食に関する指導の実践

#### ① 食育指導年間計画・食に関する年間指導計画の作成

- ア 食に関する指導の全体計画と年間指導計画の見直しと作成
- イ 校内食育推進委員会の開催（研究の方向付け、研究計画）

#### ② 食育に関する授業研究・実践

- ア 教科等の授業の実践
  - ・ 全体研究授業（提案授業）により、食に関する指導を実施
  - ・ 教科等の研究授業により、各教科や道徳における食に関する指導のあり方について共通理解
  - ・ 食の授業でつけたい力や育てたい態度・心について共通理解
- イ 栄養教諭とのT・T授業の実施
  - ・ 授業における学級担任と栄養教諭の役割分担
  - ・ 栄養教諭による食に関する指導の資料作成や教材の提供
- ウ JA専門員、給食調理員によるG・T授業の実践
  - ・ JA専門員をG・Tとした春野菜、秋野菜の栽培（2年生）
  - ・ 調理員をG・Tとした学級活動
- エ 体験学習の充実
  - ・ かほく市特産物「かほっくり（さつまいも）」の定植・収穫体験（2年生）
  - ・ かほく市特産物「紋平柿」の摘果・収穫体験（3年生）
  - ・ 学校給食米指定栽培産地での「給食用ゆめみずほ」の田植え・稲刈り体験（5年生）



#### ③ 給食時間の食に関する指導

- ア 地場産物給食の活用
  - ・ JAかほくの情報提供による「かほく給食」の実施
- イ 栄養教諭による学級訪問
  - ・ 給食時にマナーや食材についての指導
- ウ 児童による給食目標、給食カレンダーの放送

#### ④ 食に対する関心を高める環境作り

- ア 食に関する校内掲示の充実
- イ 各学年テーマに沿った教室、オープンスペースの掲示



#### (2) 児童会活動での取り組み

##### ① 給食委員会

- ア 日常活動
  - ・ 給食目標、給食カレンダーの放送
  - ・ 毎日の片付けの確認



##### イ 児童集会

- ・ 調理員の仕事や願いを発表

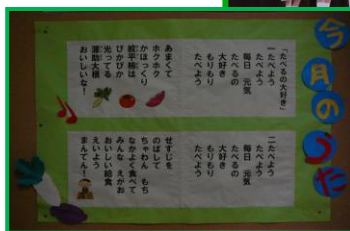


##### ② 保健委員会

- ・ 歯と食べ物の指導
- ・ 児童集会でのかけ足運動に合う食事の仕方の発表

##### ③ 運営委員会

- ・ 今月の歌「食べるの大好き」の作詞
- ・ なかよしフェスティバルの企画



##### ③ 調理クラブ

- ・ 地場産物を活用したおやつ作り

#### (3) 家庭・地域と連携した取り組み

##### ① PTCA (親・教師・子どもの会) 行事

- ・ 1年生 学校給食試食会及び食育講演会 (講師: 栄養教諭) の開催
- ・ 5年生 収穫したお米と地場産物味噌を使った五平餅作り
- ・ 6年生 地場産物野菜をつかったカレーライス作り



##### ② 地域との共催によるクッキング教室

- ・ 地場産物を活用した低学年親子クッキング教室、  
高学年ジュニアクッキング



##### ③ 朝ごはんの普及活動

- ・ かほく市健康福祉課、子育て支援課との連携により、  
市内の保育園、小学校、中学校での朝ごはんレシピの募集と紹介

##### ④ PTA 教育座談会

- ・ 「食べて 動くの大好き 高松っ子」をテーマに、石川県立看護大学  
垣花 渉准教授と保護者との座談会



## テーマ1～3に共通する具体的計画

### (1) 先進校視察

視察校 金沢市立三馬小学校

視察内容 推進校での食育の実践について聞き取り、授業参観

所感 学校教育活動全体の中に食に関する指導がしっかりと位置づけられていること。また、学校の実態に応じた年間計画と、系統立てた食に関する指導の実践が行われていて、大変参考になった。

### (2) 食育アンケートの実施

#### ① 児童対象の実態調査

・各学年のテーマに沿ったアンケートの実施

#### ② 1年生保護者対象の実態調査

・家庭でのマナー

※アンケートの結果では、保護者が食事の挨拶(59%)や食器の持ち方(62%)好き嫌いしない(71%)に気を付けているのに対し、児童は食事の挨拶(48%)や食器の持ち方(44%)好き嫌いしない(54%)と、多少の差があった。

### (3) 生産者・地域との連携

#### ① かほく市瀬戸町生産組合、JAかほく、県農林事務所、かほく市産業振興課、かほくり生産組合等との連携

…米作り、野菜作り、特産物(さつまいも・柿)の定植・収穫

#### ② 石川県立看護大学

…6年児童の生活実態調査

#### ③ かほく市食生活改善推進員

…ジュニアクッキング補助

#### ④ 招待給食

…GT、授業協力者を招き、児童との交流給食会の実施



## 数字で変化のあった事項について

各学年のテーマにあわせた食育アンケートの実施。

1年生 テーマ「食べるの大好き、感謝して食べよう」

◎「いただきます」「ごちそうさま」を言っていますか？

言っていると答えた児童 5月56人 → 12月65人

◎作ってくれた人のことを考えて食べていますか？

食べていると答えた児童 5月39人 → 12月51人

2年生 テーマ「野菜大好き、育てた野菜をおいしく食べよう」

◎野菜は好きですか？

好き・大好きと答えた児童 5月65人 → 12月70人

嫌い・大嫌いと言った児童 5月11人 → 12月6人

3年生 テーマ「食べ物のことを知り、感謝して食べよう」

◎給食を残さないように食べていますか？

残さないと言った児童 5月38人 → 12月64人

◎「いただきます」「ごちそうさま」をしっかり言っていますか？

言っていると答えた児童 5月35人 → 12月64人

4年生 テーマ「食べ物の働きに関心を持ち、体によい取り方をしよう」

◎食べ物をよくかんで食べていますか？

よくかんで食べている 5月38人 → 12月49人

◎食べ物のとり方と、体の育ち方は関係があると思いますか？

とてもある 5月44人 12月 → 54人

- 5年生 テーマ「食の大切さについて学んだことを自らの生活に生かそう」  
 ◎ 食に関することで、学校で学んだことを家でやってみたことはありますか？  
 あると答えた児童 5月29人 → 12月33人
- 6年生 テーマ「食生活と健康の関わりについて見直し、心と体によい食事について考えよう」  
 ◎ 朝食で食べた食材はどれくらいですか？  
 7種類以上食べている児童 5月0人 → 12月7人  
 4種類以上食べている児童 5月54人 → 12月64人

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### (1) 食育年間指導計画の作成

食に関する指導を学校教育活動全体の中で推進していくため、各学年、各教科等全ての学習にわたって、食育の観点から指導内容や学習活動の抽出を行い、年間指導計画を作成した。それによって、教職員の食育に対する意識が高まり、食育指導を計画的・継続的に実施することができた。その結果、アンケート結果からもわかるように児童の食に対する意識の望ましい変容が見られるようになった。また、教科等においては、各教科の目標や内容を身につけることを第一義に考え、その実現の過程に「食育の視点」を位置づけ、意図的に指導することも共通理解をして授業実践を進めていった。

### (2) 人とのかかわりや体験活動

かかわり合いや体験活動を重視してきたことが、「食べるの大好き」というめざす子どもの姿に近づけることができた大きな要因だと考えられる。栄養教諭や養護教諭とのTTやいろいろな方にゲストティチャーとしてご協力いただき、その専門性を生かした授業を積極的に実施した結果、児童の興味や関心を高め、食に関する理解を深めることにつながった。

また、米や野菜の栽培活動を通して、自然に親しみ、勤労の尊さや生産の喜びを実感することができた。その過程で、地域の方々の協力を得ながらよりよく生産するための知恵や工夫、地道な努力を学ぶこともできた。継続的な観察をしたり、栽培の苦労・努力・喜びを実感したりすることが、生命や自然を尊重する心や感謝する心につながったと言える。そして、収穫した物は、食材として活用し、お世話になった方々と共に勤労の喜びと自然の恵みに対する感動を体得することができた。

### (3) 家庭・地域との連携

食については、その大部分を家庭が担っているという実態を踏まえると、児童自身の力だけで食生活を改善していくことは難しく、家庭と連携をとることが不可欠である。授業参観で食育の授業を行ったり、学習したことを家庭で実践する場を設けたり、家族に教えてあげるといった形で学習のまとめを行ったり、児童を通して家庭に働きかける工夫を試みた。家庭から温かなメッセージをたくさんいただき、食に対する関心の高まりを感じた。家庭での食事や生活習慣を見直すきっかけになったと言える。

また、PTCAの学年行事での給食試食会や親子カレーライス作り、市やJAの方の協力によるクッキング教室、市の健康福祉課・子育て支援課との朝ご飯レシピの募集などさまざまな連携を図ってきた。さらに、校区内にある県立看護大学との連携により、「運動量と食事の関係」について、6年生児童の実態調査に基づく研究結果を授業参観やPTA教育座談会で報告していただいた。これらの取り組みにより、食生活改善に対する児童・保護者・地域の意識を高めることができた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

成果を生かし、食育の推進を継続していくことが重要である。学習したことの定着化と継続化をどのように進めていくかが今後の課題となる。そのためには、取り組みに対する点検・評価・反省・改善につながるような実態調査が必要だ。児童・保護者・教職員等へのアンケートを実施、分析して、実態に応じた指導の工夫改善をしていかねばならない。年間計画の見直しや各学年の系統性をさらに考えていく必要がある。

基本的な生活習慣の確立は、基礎学力の伸びと密接に関わっていると言われる。食育の充実が基本的な生活習慣の改善につながり、学力の向上へと結びついていくよう、組織的・計画的・継続的に日々の授業実践と研修に励んでいく必要がある。

取り組みを進めていく中で、食は人と人をつなげる効果が大いだと実感した。食育は家庭・地域・その他関係機関との結びつきが強く、連携をとりやすい教育活動である。今後、さらに積極的に連携できる体制作りをしていきたいと思う。